

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	東京電子専門学校
設置者名	学校法人電波学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	情報処理科3年制	/	240時間	80時間×3 =240時間	/
	情報処理科システム開発コース	/	180時間	80時間×2 =160時間	/
	情報処理科システム運用コース	/	180時間	80時間×2 =160時間	/
	ウェブ・メディア科	/	180時間	80時間×2 =160時間	/
	高度情報システム科	/	360時間	80時間×4 =320時間	/
	セキュリティ・ネットワーク科	/	240時間	80時間×3 =240時間	/
	電子技術科	/	180時間	80時間×2 =160時間	/
	電気工学科	/	180時間	80時間×2 =160時間	/
医療専門課程	診療放射線学科	/	270時間	80時間×3 =240時間	/
	臨床検査学科	/	255時間	80時間×3 =240時間	/
	臨床工学科	/	240時間	80時間×3 =240時間	/
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学校HPにて公開： https://www.tokyo-ec.ac.jp/campus/data/

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東京電子専門学校
設置者名	学校法人 電波学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校HPにて公開： https://www.tokyo-ec.ac.jp/campus/data/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	セントラル法律事務所 弁護士	2024.04.01 ～ 2027年度 定時評議員会 終結時迄	法的観点によるさら なる教育活動の促進
非常勤	F P オフィスノーサイド 代表 C F P 一級F P 技能士	2024.04.01 ～ 2027年度 定時評議員会 終結時迄	教職員及び学生のF P 的観点によるさら なる教育活動の促進
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東京電子専門学校
設置者名	学校法人電波学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画書の作成について 授業科目については毎年度、各学科における学科会議等により、より時代に合った適切なものとなるように検討をし、併せて文部科学省や厚生労働省等の指針などにも適合するように作成している。 ・公表について 翌年度の講義予定は12月～1月に担当教員が作成し、2月に内容を精査の上、確定した具体的な授業計画(シラバス)については、学年度開始に合わせてHPに公表している。 	
授業計画書の公表方法	学校HPにて公開： https://www.tokyo-ec.ac.jp/course/syllabus/

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

学則及び毎年度開始時に全学生に配布しているキャンパスガイドにおいて規定し、当該規定より各学生の学修成果に対して厳格な評価を実施している。

学則より抜粋

第19条 (取得単位の認定)

各授業科目の修得単位の認定は、試験により行う。ただし、平素の成績または論文をもって試験に代えることができる。

第22条 (進級および卒業不適格)

所定の科目単位を取得できなかった者、または各学年内において所定の授業総時間数の3分の1以上欠席した者は、進級または卒業することができない。

キャンパスガイドより抜粋

【欠席について】

- ・ 学問は、毎日の積み重ねが重要であり、1回でも講義を欠席するとその後の学習に困難が生じます。
- ・ 出席が講義回数の2/3に達しない場合は、原則としてその科目の試験は受けられず、単位も与えられないことになっています。

【試験】

- ・ 試験は、中間試験、学期末試験および臨時試験に分けて行います。中間試験は、授業の進度に応じて行い、学期末試験は、各学期末に行います。科目によっては学期中に何回か試験が行われ、それらを総合して成績が評価されるものもあります。
- ・ 演習・実習や実験は、毎日の出席や実験のレポート等が試験に代わるものとなります。
- ・ 講義を一回でも欠席するとその後の学習に困難が生じます。また、講義を規定回数以上欠席すると試験を受けられなくなります。真にやむを得ない場合を除いて、講義を欠席しないようにしてください。

【成績評価・成績評価基準】

- ・ 成績は100点を最高とし、各試験ともに60点を及第点とします。これを評価基準により「A」「B」「C」で表します。
- ・ 成績評価基準

A	・・・	100～80	単位付与
B	・・・	79～70	単位付与
C	・・・	69～60	単位付与
D	・・・	59～0	単位付与せず

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>キャンパスガイドにおいて、学業の達成度を客観的に評価するための指標として以下の成績評価基準を規定している。</p> <p>【成績評価・成績評価基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成績は100点を最高とし、各試験ともに60点を及第点とします。これを評価基準により「A」「B」「C」で表します。 ・ 成績評価基準 <ul style="list-style-type: none"> A・・・100～80 単位付与 B・・・79～70 単位付与 C・・・69～60 単位付与 D・・・59～0 単位付与せず <p>客観的指標 履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する（100点満点で点数化）</p>	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	学校HPにて公開： https://www.tokyo-ec.ac.jp/campus/data/

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業要件については学則に以下の通り規定している。</p> <p>第22条（進級および卒業不適合） 所定の科目単位を取得できなかった者、または各学年内において所定の授業総時間数の3分の1以上欠席した者は、進級または卒業することができない。</p> <p>また、学科毎に内規として卒業認定規定が存在する場合は、それを各学生へ入学時に資料を配布している。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	学校HPにて公開： https://www.tokyo-ec.ac.jp/campus/data/

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	東京電子専門学校
設置者名	学校法人電波学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校HPにて公開： https://www.tokyo-ec.ac.jp/campus/data/
収支計算書又は損益計算書	学校HPにて公開： https://www.tokyo-ec.ac.jp/campus/data/
財産目録	学校HPにて公開： https://www.tokyo-ec.ac.jp/campus/data/
事業報告書	学校HPにて公開： https://www.tokyo-ec.ac.jp/campus/data/
監事による監査報告（書）	学校HPにて公開： https://www.tokyo-ec.ac.jp/campus/data/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報処理科3年制	○	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,550 単位時間/ 172 単位	1455 単位 時間/ 97 単位	/	1800 単位 時間/ 108 単位	/	/
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
230 人		159 人	0 人	13 人	17 人	30 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 欠席が続くなど学修状況の変化がある場合はメール等で状況を確認し、場合によっては当該学生もしくは保護者を含め個別面談を行っている

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
46 人 (100%)	0 人 (0.0%)	44 人 (95.7%)	2 人 (4.3%)
（主な就職、業界等） IT業界、システムインテグレータ等			
（就職指導内容） 担任、キャリアセンターによる履歴書添削や面接指導。契約会社から派遣されているキャリアコンサルタント等による履歴書添削や面接指導。学内での合同企業説明会、個別企業説明会の実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 基本情報技術者試験、ITパスポート試験、セキュリティマネジメント試験、ビジネス数学検定等			
（備考）（任意記載事項）			

情報処理科 3 年制

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
162 人	5 人	3.1%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学校生活不適應、心神疾患		
(中退防止・中退者支援のための取組) 保護者との連携、個人面談、三者面談、電話・メール連絡、心理カウンセラーのカウンセリング、学費のための相談員配置、補講実施		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	情報処理科 システム開発コース	○	-	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2年	昼	1,700 単位時間/ 116 単位	1530 単位 時間/ 102 単位	/	1590 単位 時間/ 105 単位	/
			単位時間/単位			
生徒総定員数 *1	生徒実員 *1	うち留学生数 *1	専任教員数 *1	兼任教員数 *1	総教員数 *1	
290 人	152 人	3 人	13 人	14 人	27 人	

*1 コース分けは1年後期からのため、「情報処理科」合計の情報を記載

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の1. を参照 成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の3. を参照 卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の4. を参照 学修支援等
（概要） 欠席が続くなど学修状況の変化がある場合はメール等で状況を確認し、場合によっては当該学生もしくは保護者を含め個別面談を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
33 人 (100%)	0 人 (0.0%)	30 人 (90.9%)	3 人 (9.1%)
（主な就職、業界等） IT業界、システムインテグレータ等			
（就職指導内容） 担任、キャリアセンターによる履歴書添削や面接指導。契約会社から派遣されているキャリアコンサルタント等による履歴書添削や面接指導。学内での合同企業説明会、個別企業説明会の実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 基本情報技術者試験、ITパスポート試験、セキュリティマネジメント試験、ビジネス数学検定等			
（備考）（任意記載事項）			

情報処理科

中途退学の現状 ※情報処理科全体の数値を掲載		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
162 人	9 人	5.6%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 保護者との連携、個人面談、三者面談、電話・メール連絡、心理カウンセラーのカウンセリング、学費のための相談員配置、補講実施		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	情報処理科 システム運用コース	○	-	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2年	昼	1,700 単位時間/ 116 単位	1170 単位 時間/ 78 単位	/	1305 単位 時間/ 86 単位	/
			単位時間/単位			
生徒総定員数 *1	生徒実員 *1	うち留学生数 *1	専任教員数 *1	兼任教員数 *1	総教員数 *1	
290 人	152 人	3 人	14 人	12 人	26 人	

*1 コース分けは1年後期からのため、「情報処理科」合計の情報を記載

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の1.を参照 成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の3.を参照 卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の4.を参照 学修支援等
（概要） 欠席が続くなど学修状況の変化がある場合はメール等で状況を確認し、場合によっては当該学生もしくは保護者を含め個別面談を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
38 人 (100%)	0 人 (0.0%)	31 人 (81.6%)	7 人 (18.4%)
（主な就職、業界等） IT業界、システムインテグレータ等			
（就職指導内容） 担任、キャリアセンターによる履歴書添削や面接指導。契約会社から派遣されているキャリアコンサルタント等による履歴書添削や面接指導。学内での合同企業説明会、個別企業説明会の実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 基本情報技術者試験、ITパスポート試験、セキュリティマネジメント試験、ビジネス数学検定等			
（備考）（任意記載事項）			

情報処理科

中途退学の現状 ※情報処理科全体の数値を掲載		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
162 人	9 人	5.6%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 保護者との連携、個人面談、三者面談、電話・メール連絡、心理カウンセラーのカウンセリング、学費のための相談員配置、補講実施		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	ウェブ・メディア科	○	-	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2年	昼	1,700 単位時間/ 116 単位	435 単位 時間/ 29 単位	/	1545 単位 時間/ 103 単位	/
			単位時間/単位			
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
140 人	43 人	2 人	8 人	10 人	18 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 欠席が続くなど学修状況の変化がある場合はメール等で状況を確認し、場合によっては当該学生もしくは保護者を含め個別面談を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
23 人 (100%)	0 人 (0%)	21 人 (91.3%)	2 人 (8.7%)
（主な就職、業界等） ウェブ制作会社、映像制作会社、IT業界、システムインテグレータ等			
（就職指導内容） 担任、キャリアセンターによる履歴書添削や面接指導。契約会社から派遣されているキャリアコンサルタント等による履歴書添削や面接指導。学内での合同企業説明会、個別企業説明会の実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 基本情報技術者試験、ITパスポート試験、Web検定、色彩検定等			
（備考）（任意記載事項）			

ウェブ・メディア科

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
46 人	5 人	10.9%
(中途退学の主な理由) 進路変更、心身疾患、学校生活不適合		
(中退防止・中退者支援のための取組) 保護者との連携、個人面談、三者面談、電話・メール連絡、心理カウンセラーのカウンセリング、学費のための相談員配置、補講実施		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	高度情報システム科	-	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3,400 単位時間/ 228 単位	1680 単位 時間/ 112 単位	/	2505 単位 時間/ 146 単位	/	
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
320人	55人	0人	14人	21人	35人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 欠席が続くなど学修状況の変化がある場合はメール等で状況を確認し、場合によっては当該学生もしくは保護者を含め個別面談を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
19人 (100%)	1人 (5.3%)	18人 (94.7%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） IT業界、システムインテグレータ等			
（就職指導内容） 担任、キャリアセンターによる履歴書添削や面接指導。契約会社から派遣されているキャリアコンサルタント等による履歴書添削や面接指導。学内での合同企業説明会、個別企業説明会の実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、ITパスポート試験、セキュリティマネジメント試験、LPIC等			
（備考）（任意記載事項）			

高度情報システム科

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
62 人	1 人	1.6%
(中途退学の主な理由) 進路変更 (過去の主な退学理由：学校生活不適應、進路変更)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 保護者との連携、個人面談、三者面談、電話・メール連絡、心理カウンセラーのカウンセリング、学費のための相談員配置、補講実施		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	セキュリティ・ネットワーク科	○	-		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,550 単位時間/ 176 単位	1530 単位時間/ 101.5 単位	60 単位時間/ 4 単位	1710 単位時間/ 103.5 単位	/	
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160 人	59 人	2 人	10 人	20 人	30 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 欠席が続くなど学修状況の変化がある場合はメール等で状況を確認し、場合によっては当該学生もしくは保護者を含め個別面談を行っている

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
40 人 (100%)	1 人 (2.5%)	35 人 (87.5%)	4 人 (10.0%)
（主な就職、業界等） IT業界、システムインテグレータ等			
（就職指導内容） 担任、キャリアセンターによる履歴書添削や面接指導。契約会社から派遣されているキャリアコンサルタント等による履歴書添削や面接指導。学内での合同企業説明会、個別企業説明会の実施。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、ITパスポート試験、セキュリティマネジメント試験、LPIC等			
（備考）（任意記載事項）			

セキュリティ・ネットワーク科

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
84 人	0 人	0.0%
(中途退学の主な理由) 2024 年度の退学者なし (過去の主な退学理由：学校生活不適應、進路変更)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 保護者との連携、個人面談、三者面談、電話・メール連絡、心理カウンセラーのカウンセリング、学費のための相談員配置、補講実施		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	電子技術科	○	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,430 単位時間/ 126 単位	1350 単位 時間/ 90 単位	120 単位 時間/ 4 単位	1140 単位 時間/ 38 単位		
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
110人	31人	2人	6人	7人	13人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 欠席が続くなど学修状況の変化がある場合はメール等で状況を確認し、場合によっては当該学生もしくは保護者を含め個別面談を行っている

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
10人 （100%）	1人 （10.0%）	9人 （90.0%）	0人 （0%）
（主な就職、業界等） 通信機器関係、無線機器関係、音響機器関係、医療機器関係			
（就職指導内容） キャリアカウンセラーを講師として、1年、2年を通して指導。 会社説明会や、担任、キャリアセンターによる履歴書添削や面接指導。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 第一種特殊無線技士、工事担任者（DD三種、AI・DD総合種、第二種電気工事士）			
（備考）（任意記載事項）			

電子技術科

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
34 人	13 人	38.2%
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應、心身疾患、学業不振、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 主に担任が、学生の状況を把握し、保護者と連絡を密に取るようにしている。		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	電気工学科	○	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,025 単位時間/ 99 単位	1140 単位 時間/ 76 単位	180 単位 時間/ 6 単位	705 単位 時間/ 17 単位		
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
130人		70人	3人	5人	6人	11人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 欠席が続くなど学修状況の変化がある場合はメール等で状況を確認し、場合によっては当該学生もしくは保護者を含め個別面談を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
23人 (100%)	0人 (0%)	23人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 電気設備管理、電気工事、施工管理			
（就職指導内容） キャリアセンターと担任が連携して指導している。個人面談、模擬面接、OBによる会社説明などきめ細かい指導を行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 在学中にはほとんどの学生が第一種、第二種電気工事士国家試験合格。 他に消防設備士（甲4、乙4、乙7）等の資格取得、在学中に第三種電気主任技術者国家試験合格者もいる。			
（備考）（任意記載事項）			

電気工学科

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
62 人	9 人	14.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学校生活不適應、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任が出席状況を常に把握し、本人・保護者と連絡を密にしている。		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	診療放射線学科	○	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,760 単位時間/ 138 単位	1740 単位 時間/ 115 単位	/	1020 単位 時間/ 23 単位	/	
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
270 人	260 人	0 人	10 人	18 人	28 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 欠席が続くなど学修状況の変化がある場合はメール等で状況を確認し、場合によっては当該学生もしくは保護者を含め個別面談を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
49 人 (100%)	0 人 (0%)	31 人 (63.3%)	18 人 (36.7%)
（主な就職、業界等） 病院			
（就職指導内容） 基本的に担任が履歴書添削や面接練習などを行っている。必要に応じて学科内や医療系教員も面接指導を行い学科全体で学生の就職指導を行っている。またキャリアセンターと連携を密にして、就職関連など多くの情報を共有し学生をサポートしている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 診療放射線技師、第1種放射線取扱主任者、第2種放射線取扱主任者			
（備考）（任意記載事項）			

診療放射線学科

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
250 人	27 人	10.8%
<p>(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振、学校生活不適應、心身疾患</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組) 中退を防止するため成績不振者に対しては、担任と学生の二者面談で勉強方法の改善などを話し合い、次いで保護者を交えた三者面談で現状と改善点について情報の共有をしている。 中退者支援の取組は本人の考え方などに耳を傾け、今後の方向性を決めるため一緒に考えるように心がけている。</p>		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
医療		医療専門課程	臨床検査学科	○	-	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
3年	昼	2,565 単位時間/ 132 単位	1590 単位 時間/ 106 単位	/	975 単位 時間/ 26 単位	/
			単位時間/単位			
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
240人		167人	1人	9人	16人	25人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 欠席が続くなど学修状況の変化がある場合はメール等で状況を確認し、場合によっては当該学生もしくは保護者を含め個別面談を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
46人 (100%)	0人 (0%)	38人 (82.6%)	8人 (17.4%)
（主な就職、業界等） 病院、検査センター			
（就職指導内容） キャリアセンターによる履歴書の書き方、面談の模擬、検査センターの見学			
（主な学修成果（資格・検定等）） 臨床検査技師、上級・中級バイオ技術者認定、2級・3級心電図検定、危険物乙4等			
（備考）（任意記載事項）			

臨床検査学科

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
176 人	21 人	11.9%
(中途退学の主な理由) 学業不振、心身疾患		
(中退防止・中退者支援のための取組) メンタルヘルス、保護者を含めた面談、学期毎成績送付 (保護者)、転科の勧め		

① 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
医療		医療専門課程	臨床工学科	○	-	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
3年	昼	2,700 単位時間/ 141 単位	2040 単位 時間/ 119 単位	/	660 単位 時間/ 22 単位	/
			単位時間/単位			
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
240人		89人	0人	9人	18人	27人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の1. を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の3. を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施および公表】の4. を参照
学修支援等
（概要） 欠席が続くなど学修状況の変化がある場合はメール等で状況を確認し、場合によっては当該学生もしくは保護者を含め個別面談を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
36人 (100%)	0人 (0%)	34人 (94.4%)	2人 (5.6%)
（主な就職、業界等） 病院			
（就職指導内容） 本人の希望を優先とし事前に履歴書の添削、面接要領の練習を実施 就職未定の学生には本人の希望に近い病院を紹介と先方病院への連絡の実施			
（主な学修成果（資格・検定等）） 第1種および第2種ME 実力検定			
（備考）（任意記載事項）			

臨床工学科

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
110 人	11 人	10.0%
(中途退学の主な理由) 学業不振、学校生活不適應、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 成績不良者と出席率低迷者に対しその都度個別面談し注意喚起と意欲を増幅させるよう実施・本人の目的意思の確認・個別面談と3者面談の実施 他科への転科推奨		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
情報処理科3年制	350,000円	420,000円	547,000円	施設費・実験実習費
情報処理科	320,000円	420,000円	547,000円	施設費・実験実習費
ウェブ・メディア科	320,000円	420,000円	547,000円	施設費・実験実習費
高度情報システム科	350,000円	420,000円	547,000円	施設費・実験実習費
セキュリティ・ ネットワーク科	350,000円	420,000円	547,000円	施設費・実験実習費
電子技術科	300,000円	420,000円	487,000円	施設費・実験実習費
電気工学科	300,000円	420,000円	487,000円	施設費・実験実習費
診療放射線学科	450,000円	480,000円	720,000円	施設費・実験実習費
臨床検査学科	450,000円	480,000円	720,000円	施設費・実験実習費
臨床工学科	450,000円	480,000円	720,000円	施設費・実験実習費
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 学校HPにて公開： https://www.tokyo-ec.ac.jp/campus/data/		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) ・学校関係者評価は、学校関係者と企業等の役員や職員などがお互いの理解を深めることを目的とする。 ・学校評価の基本は自己評価であるが、当然自己からの視点だけでは過不足が生ずる。それを解消するために、本校では広く企業等役員などの学校内部以外からの視点を取り入れ、より適切な学校作りを目指す。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
帝京短期大学	2023年4月1日から 2026年3月31日	企業等委員 本校卒業生
株式会社 サンリツ	2023年4月1日から 2026年3月31日	企業等委員
株式会社 システムプロダクツ	2023年4月1日から 2026年3月31日	企業等委員 本校卒業生
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 学校HPにて公開： https://www.tokyo-ec.ac.jp/campus/data/		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 学校HP： https://www.tokyo-ec.ac.jp/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H113311600084
学校名 (〇〇大学 等)	東京電子専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 電波学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等 (内数) ※家計急変による者を除く。		109 人 (-人)	104 人 (-人)	- 人 (-人)
内 訳	第Ⅰ区分	58 人	47 人	
	(うち多子世帯)	(人)	(人)	
	第Ⅱ区分	25 人	30 人	
	(うち多子世帯)	(人)	(人)	
	第Ⅲ区分	15 人	12 人	
	(うち多子世帯)	(人)	(人)	
	第Ⅳ区分 (理工農)	- 人	- 人	
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	- 人	- 人	
区分外 (多子世帯)	0 人	0 人		
家計急変による 支援対象者 (年間)				- 人 (-人)
合計 (年間)				115 人 (-人)
(備考)				
2024年度において「多子世帯」の認定を受けた支援対象者は「第Ⅳ区分(多子世帯)」のみ。				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	- 人	0 人	0 人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が廃止の基準に該当)	0 人	0 人	0 人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0 人	0 人	0 人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	- 人	- 人	0 人
計	- 人	- 人	0 人
(備考) 『右以外の大学等』欄には修業年限3年以上の学科・コースの人数を、『短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。）及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。）』欄には修業年限2年以下の学科コースの人数を、それぞれ記入。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	-人	0人	-人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	-人	-人	-人
計	11人	-人	-人
(備考) 『右以外の大学等』欄には修業年限3年以上の学科・コースの人数を、『短期大学(修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)]欄には修業年限2年以下の学科コースの人数を、それぞれ記入。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。